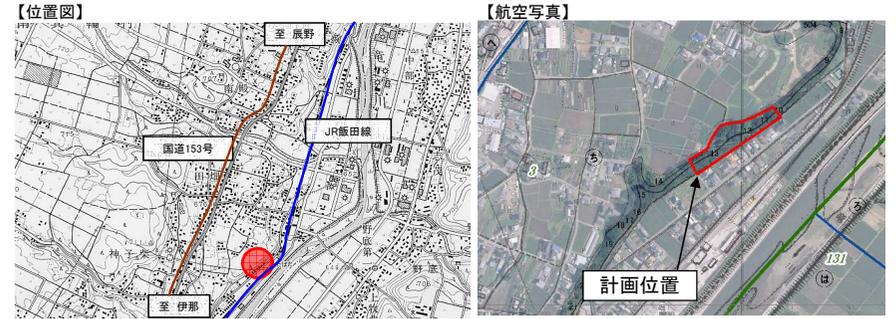


(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名	山地治山		路河川名等	—	
事業毎の通番	5	市町村名	南箕輪村	箇所名(ふりがな)	田畑 (たばた)
事業目的	平成2年～平成3年に簡易法枠工を施工していたが、近年の突発的な豪雨に加え、簡易法枠工の老朽化により平成26年2月に部分的に山腹崩壊が発生した。 また、崩壊箇所以外の簡易法枠工についても老朽化が進み、各所で土砂の中抜け、脚部の著しい侵食がみられ、次期降雨により、再度、崩壊が発生する恐れが高いため、近年の降雨強度の高い豪雨を踏まえた対策工事を施工し、土砂災害の未然防止を図る。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等	森林法	
関連する事業、計画等					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家11戸、村道160m、JR飯田線60m、用水路160m				
着手年度	平成27年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	平成29年度	費用対効果	3.09		国庫 其他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	山腹工 0.50ha 法枠工 1,500m ² 森林整備 0.50ha		70,000	35,000	31,500 3,500
年度事業内容(主な工種)				0	0 0
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家11戸、村道160m、JR飯田線60m、用水路160mの保全を図る。			
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の安全・安心な生活環境の保全や、流域の自然環境の向上を図る。			
評価の視点	必要性	【人家戸数】 11戸 【公共施設数】 村道、JR飯田線 【災害時要援護者関連施設の有無】 なし 【保安林・林業用施設】 保安林率100%、土流	評価		A
	重要性	【過去の災害履歴】 H26 融雪災 【交通遮断による地域経済への影響】 影響大・・・JR飯田線 【地域防災計画上の位置付け】 計画登載	評価		A
	効率性	【費用便益比(B/C)】 3.09 【事業期間】 事業年数 3年(H27～H29) 【工法等の比較検討】 地質調査および概略の工法検討実施 【流域の総合調整】 土砂法指定地域であるが保安林であるため治山事業で実施	評価		A
	緊急性	【流域の地形、地質】 第4紀層(礫、砂、段丘)、一部地すべり地形 【平均山腹勾配】 45° 【下流の堰堤等の整備状況】 なし 【山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域】 A、土砂災害特別警戒区域	評価		A
	計画熟度	【事業情報の共有】 地元区対象に説明済 【地域の取り組み】 地域住民、南箕輪村から、建設事務所・林務部に要望 【地域の合意形成】 合意形成が図られている 【住民との協働】 完工後における立木の維持管理が見込まれる	評価		B
	部意見	急傾斜の上、既存施設の経年変化による劣化が著しく、豪雨による斜面の拡大崩壊が懸念される。下方に人家等があり、早急に対策を行う必要がある。	行政改革課意見	H26.2に融雪により山腹崩壊をしており、保全対象に人家、JR飯田線があることから、重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	評価結果

事業概要説明図表



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は、段丘崖の非常に急峻な地形となっており、人家が近接し、従前から山腹崩壊の危険性が高く、平成2年～平成3年に民有林治山事業により簡易法枠工を施工した。 事業の実施から約20年が経過したことや、近年の気象変動による豪雨の頻発や湧水等による斜面侵食により、治山施設の老朽化が進み、平成26年2月に部分的に山腹崩壊が発生したため、これを契機に、地域の安全・安心な生活環境を保全するため、改めて対策工事を実施することとした。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H25以前: 毎年区長から南箕輪村、南箕輪村から上伊那地方事務所宛てに事業実施要望 H26.4.25: 神子柴区長から南箕輪村に対し対策要望 H26.5.23: 南箕輪村より上伊那地方事務所宛てに事業実施要望
③事業説明等の経緯	H26.7.31: 神子柴区、田畑区(10名)に融雪災による山腹崩壊箇所の復旧対策と今後の事業展開について説明
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	斜面崩壊を防止して人家および直近の用水路を土砂災害から保全し、地域の安全・安心な生活環境の保全を図る
⑥地域活性化への影響と配慮	なし
⑦その他	なし

事業代表地点の緯度経度
北緯: N 35° 51' 38"
東経: E 137° 58' 34"